『綿（わた）に色をつけてみよう！』　５歳児　10月　伏見こども園

エピソード

製作材料の中から綿を見つけたＡくんが、綿に色をつけようと油性ペンを持って来て綿を手に持って塗り始めました。ところが、ペン先に綿の毛が付くだけで綿には思うように色がつきません。そこで保育者は「こんな方法もあるけど」と、ビニール袋と水性ペンをＡくんに渡しました。Ａくんはビニール袋の中に水性ペンを塗り、綿を入れて揉み始めました。するとＡくんが「色ついた！」と嬉しそうな声を上げました。その声を聞き、「ほんまや！」「私もやってみたい」と周りの子達も綿に色をつけ始めました。

Ａくんと同じ方法で色をつけようとする子もいましたが、カップや内側がツルツルの箱に水性ペンで色を塗り、綿をこすって色をつけたり、「水を入れてみたらいいかも」と水性ペンで塗ったところに水をほんの少し入れて綿を浸してみたりするなどの方法を試す中でいろいろなことを見つけていました。

綿に色がついた！（嬉しい）（喜び）



蓋にペンで色を塗って綿に色がついたらまた透明になった（面白い）



水を混ぜてみたら綿にきれいに色がついた（不思議）（面白い）



綿だけじゃなくて水にもきれいな色がついた（驚き）



どうやるのか教えて（興味）（好奇心）



ピンクと紫が混ざった色になったよ（工夫）（喜び）





水を入れた方が色が濃いペンだけだと綿あめみたい（比較）（違いに気付く）

OHP に置いたらきれいに色が見えると思ったのに…（残念）（疑問）



子どもの育ちや学び

・今までの経験から、ペンや素材の特性がわかり、綿に色をつけるために使えるものを選び、やってみようとする。
・友達と同じ方法だけでなく、自分なりに考えた方法を試したり、工夫したりして綿に色をつける。
・気付いたことを言葉にして伝えたり、友達にやり方を教えたりして、共有する。
・友達のやり方と比較したり、予想したことを試したりする中で、違いや新たなことに気付く。

保育者の思い

・Ａ くんの「綿に色をつけてみよう」という思いつきがどうなるのか楽しみにみていたのですが、油性ペンで色が思ったようにつかず、油性ペンもインクが出なくなりそう…と思い、ヒントを投げかけることにしました。以前、遊びの中で絵の具を袋に入れ、綿に色をつけたことがあったので、水性ペンでもＡくんは同じように自分で方法を考えて試していました。
・Ａ くんのおもいつきから、周りの子にも広がる様子がとても楽しそうだったのですが、それぞれ自分で考えた方法を試しだしたことに、面白さを感じました。今までの遊びの経験や使う中で分かっている用具や素材の特性が分かり、自分なりの方法を見つけて試す姿に成長を感じました。
・ここから遊びが展開していくのか、色をつけることを十分に楽しんで満足し、また違う遊びが生まれるのか見守りたいと思います。

家庭だったら

子ども達が試している方法はどれも綿にきれいに色が付きます。お家でも水性ペンと綿があれば簡単にできると思います。同じ色を使っていても綿やインクの量で違う色合いになるのも面白いですよ。